

目標達成計画

作成日：平成 24 年 8 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	生活力を取り戻す。認知症を発症し、様々な事を制限されたり、手助け(必要以上に)されてきたために失ってしまった生活力を、グループホームでは、できる機会を作ることで、少しずつでも良いので取り戻していく。それが利用者本人としても良いことではないか。	たとえ認知症が進むとしても、寝たきりを作らない介護。	日常の家事を中心とした仕事を利用者と一緒にやる。もしくは、利用者自身が行う。共に生活する仲間としての職員の役割をしっかりと認識する。洗濯、洗濯干し、洗濯たたみ、調理、味見、食器洗い、買物、掃除等、IADLに係ることに重きを置き、生活力を取り戻していけるよう、取り組む。	12ヶ月
2	40	楽しみの支援の強化。生活に密着した取り組みの中で、特に食事に関する事に力を入れ、それが楽しみになれるようにしていきたい。現在では、食事のメニューの自由度や、楽しむ目的の食事というものに欠けている。買物も、楽しむための食材調達という意識であれば、もっと楽しめるものになるのではないか。	利用者自身が、満足のいく生活を送れる。	楽しみ(見返り)のある生活は活気をもたらします。特に食に関する事は直接的な楽しみ(見返り)であると思います。例えば、おいしいものを求めて、いつもとは違うスーパーにいいものを求めて買物に行く。そこで試食があれば寄り道したり、そこでおいしかったものを買って帰る等、普段私たちがしている普通の光景をグループホームでもしていきたい。また、いつもとは違う雰囲気でする、たとえばテラスに出て食事、魚や肉を焼きながら、焼きあがれば食べる等、それも普段私たちが行っている光景。それこそが楽しみ(見返り)のある生活であって、人が生きてると実感できることだと思う。	24ヶ月
3	13	職員のレベルの均一化を図る。職員の異動や退職等により、職員の入れ替わりがあり、それにより新人職員等が慣れるまで、サービスの質の低下の可能性があります。職員をしっかり管理・指導できる体制づくり、実践が必要です。	はやくグループホームでの仕事に慣れ、チームとしての戦力になっていただく。	グループホームのケア目標は常に意識できるように朝礼時、指導時、様々な機会を使って伝えていく。プリセプターを介して、新しい職員に対し、正しい情報、統一した情報を伝え、混乱を防ぎ、働きやすいよう指導する。	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。